

361 爪つめの垢あかを煎せんじて飲のむ

優れた人物じんぶつの事ことを少すこしでも見習みならおうとする気持きもちち。

362 面つらの皮かわが厚あつい

ずうずうしく、厚あつかましい上うえに、それを恥はじとも思おもわない。

363 鶴つるの一声ひとこえ

多おほくの意見いけんをおさえつけ、否いや応おうなしに従したがわせる権力けんりょく者しゃの一言ひとこと。

364 手てが空あく

仕事しごとが一段落ひと段落し、時間じかんができる。

365 手てが掛かかる

世話せわがやける。手間てまがかかる。

366 手てが込こむ

技術ぎじゆつが優すぐれ、複雑ふくざつできめ細こまかい細工さいく。また、複雑ふくざつな物事ものごと。

367 手てが付つけられない

処置しよちのしようがない。

368 手てが出でない

自分じぶんの能力のうりょくではどうすることもできない。

369 手てが届とどく

自分じぶんの能力のうりょくでどうにかなる。もう少すこしである段階だんかに到達とうたつする。細こまかく配慮はいりよがなされている。

370 手てが早はやい

物事ものごとをてきぱきと的確てきかくに処理しゆりする。すぐに暴力ぼうりょくをふるう。

371 手てぐすねを引ひく

十分じゆふぶんに用意よういをして敵てきを待ち受まける。

372 手て心こころを加くわえる

寛大かんだいな気持きもちちで、手加減てかげんをする。

373 梃てい子こでも動うごかない

何なにがあつてもその場ばから動うごかない。何事なにごとにも動どうじない強い信念しんねん。

374 手て塩しおにかける

自分じぶんで直接ちよくせつ世話せわをし、大切たいせつに育そだてる。

375 手て玉たまに取る

人ひとを自分じぶんの思おもい通とおりに操あやつる。

376 手てに汗あせ握にぎる

危険きけんな場ば面めんや切迫せつぱくした状況じようきやうに成なり行ゆきがどうなるのかはらはらす。

377 手てに余あまる

自分じぶんの能力のうりょくを超こえていて、どうにもならない。

378 手てに付つかない

他ほかのことに気きを取とられて、すべきことに集しゆ中ちゆうできない。

379 手てに取とるように

すぐ目めの前まえにあるかのように実感じつかんを持つもつて見みえたり聞きこえたりする。

380 手ての内うちを見みせる

自分じぶんの心こころ中ちゆうにある計画けいかくなどを明あかす。又また、技術ぎじゆつ、腕前うでまえを相あいに見みせる。